



【第42期初級陸曹特技課程「准看護師」総合訓練】平成30年10月18日

自衛隊札幌病院（病院長：大鹿陸将）は、平成30年10月15日（月）～19日（金）、第42期初級陸曹特技課程「准看護師」学生に対し、**第一線救護、連隊収容所の開設・運営及び師（旅）団収容所への後送業務についての基礎的事項を修得させ、衛生救護陸曹として必要な知識と技術の向上**を図ることを目的に、北海道大演習場真駒内射場地区において総合訓練を実施しました。

18日（木）、病院長、副院長（菊池将補）及び最先任上級曹長（伊藤曹長）が視察する中、状況開始と共に戦闘で負傷した隊員の呻き声が響くすすき台に展開した学生たちは、**搜索発見した傷病者をトリアージ後、創傷処置等を施し、次の搜索へ前進、それを追従する担架班は速やかに傷病者を後送、患者集合点までの経路を何度も往復**しました。

また、はざま台に開設した収容所の学生は、**医官指示に基づき、搬送された傷病者の処置や看護にあたり、懸命に苦痛緩和及び不安除去に取り組んで**いました。

「救える仲間のため」に奮闘する先輩学生の姿を目の当たりにし、模擬患者として参加した第43期学生も、「真に役立つ衛生救護陸曹」を目指すべく気持ちを引き締めていました。

視察した病院長は「復命復唱による医療事故の未然防止。衛生科技術の益々の練成」について訓辞し、最先任上級曹長からは優秀隊員3名に対する褒賞が行われました。



負傷者の創傷処置



病院長による実視



負傷者の後送のため現地と患者集合点を往復



連隊収容所にて医官指示に基づき負傷者処置



病院長訓示



最先任上級曹長による褒賞